

抗ジンジパイン鶏卵抗体含有タブレットの臨床的および細菌学的評価

瀧川 智子¹⁾ 菅野 直之^{2,3)} Rahman AKMS⁴⁾
山村 淳一⁵⁾ 嶋田 照子¹⁾ 高根 正敏^{2,3)}
蛭間 重能²⁾ 佐藤 秀一^{2,3)} 吉沼 直人^{2,3)}
伊藤 公一^{2,3)}

¹⁾ 日本大学大学院歯学研究科 歯科臨床系専攻 応用口腔科学分野

²⁾ 日本大学歯学部保存学教室歯周病学講座

(主任：伊藤公一教授)

³⁾ 日本大学歯学部総合歯学研究所高度先端医療研究部門

⁴⁾ 株式会社ゲン・コーポレーション免疫研究所

⁵⁾ ビーンスターク・スノー株式会社

抄録：グラム陰性の偏性嫌気性菌である *Porphyromonas gingivalis* は、歯周病の最も有力な原因菌であると考えられている。*P. gingivalis* の産生するジンジパインは、発育増殖に不可欠な因子であると同時に、宿主タンパクを広範に分解し宿主免疫機構の破綻をきたす重要な病原因子である。本研究では、ジンジパインを標的とした受動免疫による歯周病治療の可能性について検討した。ジンジパイン抗原を免疫した鶏卵から抽出した抗ジンジパイン鶏卵抗体 (IgY-GP) を含有するタブレットを調製し、被験者に8週間投与した。その結果、投与前後で臨床症状に顕著な変化は認められなかったが、細菌学的評価では、唾液中の総細菌数に対する *P. gingivalis* の割合が IgY-GP 含有タブレットを服用した群で統計学的に有意に減少した。今後、さらに IgY-GP の有用性を明らかにし、効果的な使用方法を確立するために、さらなる研究が必要であると考えられる。

キーワード：ジンジパイン, 鶏卵抗体, 歯周病, *Porphyromonas gingivalis*